

エネルギー投資についての考察

1. 世界経済の課題：

“なぜ低金利のカネが有るのに企業は投資しないのか？”

2. なぜ難しいのか？ = マーケットの中で実現

エネルギー分野：プレーヤー：民間ビジネス、政府系
供給サイド、需要サイド

エネルギー生産国 伝統的に 投資=oil & gas 上流

->供給サイドも分散型 & renewables

規制制度改革->他分野からの参入

需要サイド：もともと多様、非エネルギー企業

特に電力分野=政府規制&関与 大 =ここが主戦場

3. World Energy Investment 2017の役割り

① 多様なプレーヤーへ情報共有

<-IEAの伝統 JODI and Oil Data = transparency & 大阪initiative 2002

OPECが石油価格を決める

->マーケットで決まる->どうマーケットを機能させるか

② 政府の規制： 能力の有無にかかわらず「一定の解」

市場原理主義： 放任 政府の能力不要

ハイブリッド： 規制当局としての政府、市場の中でのプレーヤーとしての政府
欠如？ = 能力 & 知識 & insight(民間は規制+マーケットの中でどう動くか)

③ 投資決定の失敗 = 将来のエネルギーの需給を固定 (技術、燃料選択、efficiency)

4. 投資についての理解の重要性

① 投資の実現 ≠ NPV positive

投資期間中のキャッシュ-フローから投資対象の現在価値を算出してコストを上回っていれば、投資が起こるか???

② 将来のエネルギー/環境の姿を共有する上での最大のギャップの原因

環境ムラ NPV positive->全てマーケット+規制で実現

現実： 制度的なバリア、投資者のプライオリティ、
金融へのアクセス、時間、知見/経験、ESCO事業?

③ IEAの投資白書で共通のコトバで対話できる基盤の創出へ

5. 技術の役割り

- renewables 経済性大きく変化
- 蓄電池、水素などエネルギーの時間的空間的移動技術の革新
- IT 技術がどこまでエネルギーの世界を変えうるか？
- 他の商品との違いは、製品の効用が既存のエネルギーに比し、革新的に付加される訳でない = “より安定性に欠け高コスト”
- 環境性能がどこまでマーケットで評価されるか->投資に繋がるかどうか

6. 日本にとってのimplication & 教訓?